

学びの風便り

リーディングスクール通信 52 R7.10.17

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



学びの改革のあゆみ 並柳小学校・岡田小学校



＊「やってみたい！」を大切に 共にチャレンジする並柳小学校

リーディングスクールとして新たな挑戦が始まって半年

並柳小学校は、今年度よりリーディングスクールとして「やってみたい！」を大切に、共にチャレンジしよう！」をテーマに新たな挑戦をスタートさせました。

4月16日の「わたしのチャレンジ！」研修では、アイスブレイクから始めることを重視。このちょっとした時間が、その後の対話を驚くほど活発にしました。まずは「個人的にやってみたいこと」からアイデアを発散。やらされることよりも自分の「やりたこと」を大切にすることで自然と本音が生まれてきました。結果、「外に出て体験する」「地域の方と学ぶ」「子どもたちが話し合っ



「チャレンジ仲間」を見つけ、授業を磨き合う！



その後も、「わたしのチャレンジ みんなのチャレンジ」をテーマとした職員研修（6月4日実施）を継続しました。互いの「チャレンジしたいこと」を共有し、「似ているチャレンジ」や「共通する部分があるチャレンジ」を見つけてチャレンジ仲間を探し、アイデアを膨らませていきました。実践をしてみるから見えてくること、困っていることが明確になり、お互いの考えに耳を傾けながら、私のチャレンジが少しずつ共通のチャレンジにもなってきました。

そして夏休み以降は、この熱意を日々の授業改善に繋げるため、公開授業のチューニングを実施しています。互いの授業構想に対して具体的なアイデアを出し合い、授業をより良いものへと磨き上げることで、並柳小学校のチームワークはさらに深まっています。

「相手の考えを大切に」「困ったときはみんなで考える」雰囲気は、特別な研修だけではなく日々の声かけからも生まれています。例えば、「今日の授業どうでした？」の一言から始まる会話。困っている同僚に「一緒に考えましょうか？」とそっと声をかけることから生まれる協働性。このような雰囲気が並柳小学校の職員室に創られてきています。ただこの空気は、定期的開催される教職員研修でのやりとりの積み重ねがあるからこそです。並柳小のチャレンジは、さらに続いていきます。

岡田小学校 「のびのび・わくわく・どんどん」を支える先生たちの学び

10月16日(木)「教科等と関連した食育」研究会が岡田小学校を会場に開かれました。

授業学級は、総合的な学習の時間にお米作りに取り組んできた5年生です。一人一人が鉢で大切に育てた「ミニ田んぼ」に実ったお米をいただくにあたり、どのようにしたらおいしく炊けるのかを、グループで探究していく場面。用具、時間、水量、火加減など、どうすればお米を「よりおいしく」炊くことができるかを、時間いっぱい検討していく子どもたちでした。



特筆すべきは、子どもたちのお米を大切に扱う様子です。一粒一粒を本当に丁寧に扱いながら、量ってみたり、袋にもどしたりする姿から、子どもたちにとって「大切なわたしのお米」であることがうかがい知れました。「食食物の大切さ、いきさつ、感謝の思い」といった食育の「ねらい」を心の底で学ぶ子どもたちの姿がここにはありました。



岡田小では今年度より「のびのび・わくわく学び、どんどんチャレンジ」を合言葉に学校づくりを進めてきました。担任の T 先生は、「これまで『引っ張る』ことが多かったけれど、今回は『子どもにゆだねる』ことを意識してきました。」と挑戦を語られましたが、まさに、その成果が子どもの姿に体现された授業となりました。

授業後に行われた授業研究会では小グループに分かれ、先生たちがとらえた「子どもの『思いや願い・探究の姿』」を時に写真を示しながら紹介し、語り合いました。先生たちの気づきは、岡田小の係の先生によって模造紙にわかりやすくまとめられていきます。各テーブルでは子どもたちの「素敵な学び」が交流され、「子どもという存在のすばらしさ」を再確認し合う温かい研究会が実現しました。

岡田小では今年度、この小グループによる「子どもの学びの語り合い」を研修の基本におき、半年間取組を重ねてきました。今回、他校からの参加者を迎え、「ファシリテーション」や「記録」を岡田小の先生たちが務めながらグループセッションを行いました。前述したとおり、語り合いにより「学び観・子ども観」が交流され広がるよさを、校外の先生たちにも実感してもらう機会となりました。



みんなで「合言葉」の実現をめざす

岡田小では、「のびのび・わくわく学び、どんどんチャレンジ」を合言葉に、一人一人が「自己課題」を持ち、授業公開でそのチャレンジからみんなで学び合うことを重ねています。



実践を語る N 先生と教頭先生

ある折のインタビューで、新採4年目の N 先生が、2年生の国語の授業で、授業公開した時のことを話してくれました。「子どもたちが活発につぶやいたり、話し合ったりする姿を見てほしかったんです」と語られる N 先生。

この日は学校のほとんどの先生たちが参観に来られ、それは嬉しかったけれど、いつにない雰囲気子どもたちが「いい子になってしまった」そうです。でも、次の時間からはそれは賑やかにかかわりながら学習を進めたといいます。

N 先生が目指しているのは「子どもたちが豊かにかかわりながら、自分たちで『創る』経験を重ねていく」ことです。「1学期には子どもたちが『夏祭り』を企画、どんどん自分たちで活動を考え実現していく子どもたちの『想像力』に感動しました。今、子どもたちは『クリスマス会』の企画を考えています。子どもたちの声をよく聞いて支援することで、楽しく『創る』経験を重ねてもらいたいと思っています」と生き生き話す N 先生でした。

「のびのび・わくわく・どんどん」を合言葉にした学び合いの中で、それを実践し、成長していく先生と子どもたちの姿が、学校の様々なところで実現している岡田小学校です。